

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 竹末 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

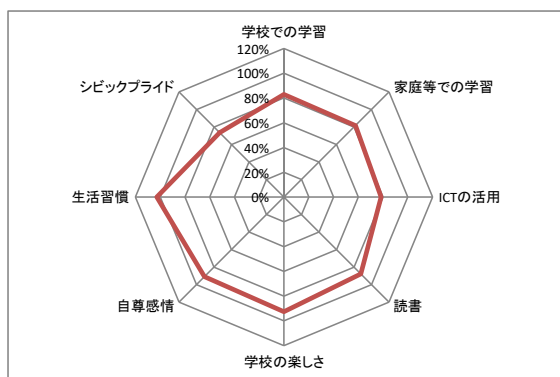
| 本年度の結果 | 国語    |       | 算数    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 9.3   | 66    | 9.4   | 59    |
| 全国     | 9.4   | 67    | 10.0  | 63    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的な正答率は70%と比較的に高い。問題種別に見ると、選択式の正答率は高いが、記述式になると正答率が下がっている。無回答率が高いのは記述式である。 | 全国平均正答率との比較 | 上回っている |
|----|-------------|--|-------------|--------|
|    | よくできた問題     | 漢字の書きの問題、文章の種類や特徴を理解しているかどうかの問題、文章を要約する問題などはよくできている。                       |             |        |
|    | 努力が必要な問題    | 自分の考えをまとめる問題、敬語の正しい使い方の問題などは、努力が必要である。                                     |             |        |

| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的には、正答率が65%と全国平均よりは高い。「数と計算」、「変化と関係」の領域は比較的高いが、「図形」「データの活用」の領域は正答率が低くなっている。 | 全国平均正答率との比較 | 上回っている |
|----|-------------|---|-------------|--------|
|    | よくできた問題     | 四則演算や()を用いた式、など、「数と計算」領域は比較的好くできている。  |             |        |
|    | 努力が必要な問題    | 正三角形の性質や、図形と面積の関係など「図形」領域に関わる問題では努力が必要である。                                    |             |        |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 |  |
|------------|--|
| ・          | 自己有用感に関わる問いに対して約70%の児童生徒が肯定的に回答している。しかし、全国平均に比べるとまだまだ低く、自己有用感が高いとは決して言えない。                 |
| ・          | 地域の行事へ参加しようとすることや、地域を大切にしようという思いなどはまだまだ足りないといえるので、学校でもシビックプライドを高めるような活動を増やしていきたい。          |
| ・          | 学校での主体的学びなどが、児童生徒の自己有用感等にもつながるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」と思える授業にすることが必要である。               |
| ・          | 「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。学校でのタブレットの使い方も課題があるが、今後は、学校だけでなく、家庭でも活用できるように指導していく必要がある。 |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

本年度より、ICTを授業に積極的に活用するよう、取り組みを進めている。話し合い活動などでも、ICTを活用しながら話し合いを深めることができるように授業づくりの研究をしているところである。努力の必要な書く活動や図形領域などはそれぞれの指導が必要であるが、本校では、コグトレをすることで、認知機能を高め、各教科の学習にも生きるよう、取り組みをしている。今後もこれらの取り組みを進め、本校の課題を解決すべく努力していく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の習慣化や充実のために行っている「家庭学習強化週間」の取り組みを続けていく。
- ・SNSや動画視聴などについては、家庭で時間を決めるなど家庭学習等とのバランスを考えるよう指導する。
- ・学校と家庭で連携して、児童が自分のよいところに気づき、自信をもてるように声掛けに努めていく。
- ・家庭との連携を密にするため、全家庭に伝えたいことは、学校便り、学年通信、家庭へのメール配信等でつたえるようにする。